

もう一度初めから その1

愚直に反省し、何が足りなかったかきちんとまとめ、改めて挑戦することは当たり前のことです。打開策を探し、突破の糸口を見つけても、その出口はいつの間にかに閉じられます。本物になることへの挑戦はまだまだ続くのです。本物になって、本当の実力をつけることに腐心し、苦しみながら明るく前を向いていくことしか道はないと思います。

しかし、今から、もう一度初めからすべてをやり直すことはできないと考えています。できるのは軌道修正だと思います。きちんと時をこまねいていずに、軌道修正を細かく繰り返すことが唯一の道でしょう。

ダカーポという音楽の記号があります。

ダ・カーポ (da capo) は、イタリア語で「頭 (はじめ) から」の意味。
ダ・カーポ (D. C. 演奏記号) - 音楽用語。「頭から」の意。D. C.と略記し、そこからいちばん初めに戻ることを意味する。初めに返ったら全部分を繰り返すか、フィーネ Fine またはフェルマータの記号のつけられた個所まで演奏する。

翻って、軌道修正しながら、もう一度初めから、なぞるように反復することは、決して悪いことではなく、もう一度初めから反復する中で、知っていることはとぼしながら、時間的には、半分か三分の一ぐらいで復習していく中で、知識は必ず定着の気配を見せるでしょう。

もう一度初めから、を5度くらい繰り返すことによって、定着記憶の中に知識は移行し、長期記憶となりうると思います。

つまり、もう一度初めからは、ゼロからのスタートではないということです。

身についた技術や体験は、既に体の中にシステム化されており、過去の自分は、その経験によって毎日新しい重複化した自分に像を重ねているわけで、自己はその厚い何枚もの皮膚によって、新しい自分を作り替え続けると考えれば、「昔取った杵柄」とか、「三つ子の魂百まで」といった諺の存在も容易に理解できるのではないのでしょうか。

課題は、ただ一つ。決着の方向性を常に目指すことです。持ち続ける課題意識は、生涯持ち続けても、決着へのベクトルの方向性を維持すべきです。